第 2013-20 号

恵みと真理のニュース

2013 年 7 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私たちの家族に与えてくださった愛に感謝し夏の断食祈り会に与えてくださる恵みを愛します。

母さんは“教会に通うと家がつぶれる”といつも口癖のように言うほど私たちの家はキリスト教に対して否定的でした。そんな家庭の環境でミッションスクールの中、高等学校を通いながら私は教会に行けませんでした。学校で礼拝時間に説教を聞いて賛美を歌うと心が楽になり平安になりました。すぐ教会に通えないがいつかは教会に通うと思って祈りました。青年になって信仰がなかった今の旦那と結婚しました。神様の恵みで卵巣癌で闘病した姑が先にイエス様を救い主で受け入れ、続けて家族も具象宗教を捨て神様だけ信じるようになりました。何年後旦那の職場のことでアンサンに引越ししました。通う教会を決めなくて探して祈っている時に次男の幼稚園の友達母さんが一緒に恵みと真理教会に行こうと誘われました。家からちょっと距離もあって迷いながら行きました。初めて教会に参加して礼拝で大きい恵みを受けました。

当会長の牧師が伝えるメセージがまるで私に向かって話しているようでした。私に下さる神様のメセージだと思って心が厚くなり胸いっぱいになりました。御言葉に感動を受け厚い涙を流しながら神霊な神様の慰めと平安を感じました。
その日から主日と平日の全ての礼拝と区域長の祈り会まで休まずに教会に行って聞き習いました。神様に御言葉が蜂蜜より甘くて毎日神様と共に生きることが感謝で幸せでした。以前は教会に通いながらも伝道をすることは頑張らなかったですが今は魂を愛する熱い心ができ、私が出会って愛したわれらの主を信じない人に伝えたくなりました。最初は内気で気が弱い性格なので人々にすぐ福音を伝えるを迷っていました。伝道するため他の人の家のベルを押せなくてただ、玄関で福音の手紙だけドアの前でおいて帰って来ながら心が寂しかったです。それで大胆に福音を伝える勇気と知恵を与えてくださいと神様に切に祈りました。“わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。ろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。”（ ヨシュア記 1 章 9 節）御言葉で大きい慰めを受けて勇気を得ました。自信が出来て良いことを得ても得なくても大胆に福音を伝えると神様が共にいてくださり準備した魂を与えてくださいました。そうしたら伝道にもっと興味ができて実りが出来ました。区域礼拝によく来なかった聖徒のため集中的に祈り訪問したら一人二人礼拝に参加するようになり区域が大きくリバイバルになって伝道する事が本当に楽しくなりました。
このように世のことよりも礼拝を最優先にして児童区域長と成人区域長の職分を受け奉仕し、伝道すると、神様は私の家族に驚くて大きい恵みを与えてくださいました。私は神様に癒され慢性的なかぜと低血圧も完全に治り、物質的な祝福も与えてくださり生活も安定的になりました。

次号に続く

［信仰コラム］　疎通（そつう）と幸（しあわ）せ

あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。（マタイ　16:23、24）

疎通（そつう）という渋滞（じゅうたい）しない、よく通（つう）じるものを指（さ）す言葉（ことば）です。人間（にんげん）関係（かんけい）での疎通（そつう）はその社会（しゃかい）の安定（あんてい）と発展（はってん）に必須（ひっす）です。意見（いけん）の不（ふ）一致（いっち）、医師（いし）不通（ふつう）がもたらす損失（そんしつ）と苦痛（くつう）は少（すく）なくは個人（こじん）に限定（げんてい）されますが、大（おお）きくは戦争（せんそう）のような大（おお）きな災（わざわ）いを招（まね）いて来（く）るようにします。人間（にんげん）関係（かんけい）の円滑（えんかつ）なコミュニケーションのために人（ひと）たちが備（そな）えるべき基本（きほん）的（てき）な品性（ひんせい）があります。その一（ひと）つには正直（しょうじき）です。騙（だま）す人（ひと）とは疎通（そつう）ができません。だまされている間（あいだ）には疎通（そつう）になるとしても持続（じぞく）的（てき）にの中（なか）を数（すう）はありません。その第（だい）二（に）は、愛（あい）する心（こころ）です。理解（りかい）して哀（あわ）れに思（おも）って許（ゆる）すのが愛（あい）が実践（じっせん）されます。犠牲（ぎせい）的（てき）に施（ほどこ）してありがたく思（おも）って受（う）ける関係（かんけい）になれば、円満（えんまん）な疎通（そつう）が行（おこな）われるようになります. 信頼（しんらい）と愛（あい）は、疎通（そつう）のための必須（ひっす）的（てき）な要素（ようそ）です。
神（かみ）様（さま）と疎通（そつう）できないことよりもっと大（おお）きな悲劇（ひげき）はありません。人類（じんるい）の祖先（そせん）アダムとハワは元々（もともと）神（かみ）様（さま）と疎通（そつう）が円滑（えんかつ）でました。ところで神（かみ）様（さま）が禁ずる禁断（きんだん）の木（こ）の実（み）を味（あじ）わって犯して、これ以上（いじょう）の神（かみ）様（さま）と円滑（えんかつ）なコミュニケーションができなくなりました。人間（にんげん）編（へん）での努力（どりょく）では神（かみ）様（さま）とコミュニケーションできる方法（ほうほう）がありませんでした。これは根本（こんぽん）的（てき）に罪（つみ）の問題（もんだい）が解決（かいけつ）されなければならないためです。それで神（かみ）様（さま）からもらった解決（かいけつ）策（さく）が贖罪（しょくざい）の福音（ふくいん）です。
神（かみ）様（さま）がお決（き）めになった時（とき）になるとキリストが世（よ）に来（き）て、拘束（こうそく）使役（しえき）を果（は）たしました。これによって神（かみ）様（さま）と人（ひと）の間（あいだ）に遮（さえぎ）られた塀（へい）が崩（くず）れました。今（いま）は人（ひと）はキリストによる神（かみ）の赦（ゆる）しと愛（あい）を受（う）け入（い）れることしかほかにやることがありません。神（かみ）の赦（ゆる）しを受（う）け入（い）れるのが罪（つみ）を許（ゆる）す得（え）させる悔（くい）い改（あらた）めです。神（かみ）様（さま）との疎通（そつう）のためには罪（つみ）を悔悟（かいご）することが先決（せんけつ）条件（じょうけん）です。違（ちが）って言（い）ってイエス・キリストを信（しん）じて迎（むかへ）接（せっ）する必要（ひつよう）があります。そうすれば義理（ぎり）になって、神（かみ）様（さま）の子供（こども）になって神（かみ）様（さま）の補佐（ほさ）の前（まえ）に大胆に進（すす）むことができるようになります。その後（あと）、私（わたし）たちは神（かみ）様（さま）と、一層（いっそう）豊（ゆた）かな意思（いし）疎通（そつう）をしながら生（い）き方（かた）を学（まな）ばなければなりません。救援（きゅうえん）を受（う）けたのだから今（いま）は神（かみ）様（さま）と意思（いし）疎通（そつう）をいくらでも活発（かっぱつ）にしながら生（い）きてことができます。そのために、私（わたし）たちが心（こころ）に留（と）めて行（おこな）うことがあります。
第（だい）一（いち）は、神（かみ）様（さま）の言葉（ことば）を日夜（にちや）黙想（もくそう）する必要（ひつよう）があります。聖書（せいしょ）を読（よ）んで説教（せっきょう）を傾聴（けいちょう）することを努（つと）めなければなりません。二（ふた）つめは、神（かみ）に祈（いの）りする必要（ひつよう）があります。神（かみ）様（さま）にたくさん求（もと）める者（もの）が神（かみ）様（さま）と円滑（えんかつ）なコミュニケーションをしながら暮（く）らすようになります。三（みっ）つめは、神（かみ）様（さま）の考（かんが）えと意味（いみ）に順応（じゅんのう）する必要（ひつよう）があります。自分（じぶん）の主観（しゅかん）を捨（す）てることができないば、神（かみ）様（さま）との意思（いし）疎通（そつう）をまともにできません。神（かみ）様（さま）弟子（でし）たちも一（いち）時期（じき）は、イエス様（さま）の言葉（ことば）を聞（き）く時（とき）自分（じぶん）の主観（しゅかん）で判断（はんだん）してちんぷんかんぷんな答（こたえ）えをしました。その弟子（でし）たちにイエスさまがおっしゃるには″誰（だれ）でも私（わたし）についてきているのなら、自分（じぶん）を否認（ひにん）して自分（じぶん）の十字（じゅうじ）架（か）を背負（せお）って私（わたし）を探（さが）してだろう。″（マ 16:24）しました。弟子（でし）がイエス様（さま）と円滑（えんかつ）な意思（いし）疎通（そつう）をしなかった理由（りゆう）は弟子（でし）らが自分（じぶん）の十字（じゅうじ）架（か）を負（お）わない、イエスをようとするからです。自分（じぶん）の主観（しゅかん）によってイエス様（さま）の言葉（ことば）を判断（はんだん）しては動（やや）もすれば師団（しだん）と疎通（そつう）することになります。神（かみ）様（さま）と疎通（そつう）を楽（たの）しむためには、神（かみ）様（さま）の考（かんが）えと意味（いみ）を加減（かげん）なくそのまま受（う）け入（い）れなければなりません。それが自分（じぶん）の十字（じゅうじ）架（か）を背負（せお）って私（わたし）を追（お）いかけ、という言葉（ことば）の意味（いみ）です。
人（ひと）が神（かみ）様（さま）と円滑（えんかつ）なコミュニケーションができるという事実（じじつ）は実（じつ）にすばらしくて奇異（きい）なことです。、イエス・キリストによってキリストを信（しん）じるすべての者（もの）にこのような恩寵（おんちょう）が付与（ふよ）されたものです。聖徒はこのような福（ふく）を受（う）けた人（ひと）たちです。皆（みんな）さんは聖書（せいしょ）の言葉（ことば）を黙想（もくそう）することを楽（たの）しんで、願（ねが）いを積極（せっきょく）的（てき）に神（かみ）様（さま）に申（もう）し上（あ）げ、神（かみ）様（さま）の考（かんが）えと意味（いみ）に完全（かんぜん）に順応（じゅんのう）して生（い）きて行（い）くことで神（かみ）様（さま）と深（ふか）くて豊（ゆた）かな疎通（そつう）をしながら生（い）きてことを祈（いの）ります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

心配を賢明に対処する方法

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

信仰状態を測定する基準はさまざまです．その中で一つは心配を対処する態度です．心配を対処する態度をよく見ればその信者の信仰状態が分かります．絶えず心配するので平安と喜びのない信者がいるかと言えば，心配が心に根付く前に適切に取り計いする信者がいます．今日は心配を賢明に対処する方法に対して聖書に記録された教訓たちを詳らかによく見ます．

第一、生きている人には心配するべきがあるのが当たり前だという認識を持たなければなりません．

心配を賢明に対処する人はいるが，心配するべきがない人はこの世の中にはないです．もし心配するべきがない人がいると言えばまさしく息をしない人であるでしょう．死んだ人という意味です．大変肝が小さくて鋭敏ですぎるほど心配するべきをたくさん作る人がいます．一方に性格が大まかでかなりの問題は心配するべきにしない人がいます．しかし心配するべきと言うのは誰にもあるものと決まっています．“心配するべきは誰にもある．心配するべきがあるというのはまだ私がこの地に住んでいるという証拠だ．”と思うのが心配に対する基本的な対処方法です．

第二、イエス様が教訓なさった“心配してはいけない理由たち”を念頭に留めおかなければなりません．

その教訓がマタイ福音書 6章に記録されています．25節に“それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。”とおっしゃいました．イスラエル民は 40年の荒野生活で神様を逆らった理由で懲罰を受けて死んだ人々は多かったが飢えてぼろを着て死んだ人は一人もいないです．イエス様は神様の言葉を聞こうと広野で集まって来た群衆たちが飢えたまま動くように捨てておいた事がなかったです．奇蹟を行って麦のパン五つと魚二匹で五千人を食べさせたし，もう一度は麦のパン七個と魚二匹で四千人を食べさせました．
26節そして 28節から 30節には“空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それだのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。　また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。
6:29しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。
6:30きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのようによそおって下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。”(マタイ福音書 6:26, 28～30)とおっしゃいました．信者たちの 心配する必要のない理由は神様が彼の子供を非常に貴重に思うからです．空の鳥と野の百合花を比喩しながらまして神様が彼の子供たちの面倒を見ないかと強調しました．神様は神様を “父”と呼ぶ信者たちを不信者とは違い待偶するということが信者たちが心配してはいけない理由です．27節に見るとイエス様が “あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。”とおっしゃいました．心配するのが問題解決に何らの役に立たないという実は心配してはいけない理由です．ここに “寿命を延ばすこと背を伸びること背１寸法はおおよそ 45センチメートルです．背が伸びないことを心配するのに背の伸びる事ができないという厳然な事実を例であげて心配することでは問題解決に何らの役に立たないと指摘しました．イエス様が教訓なさった心配してはいけない理由たちによって皆さんはどんな心配するべきが生じても心配しないように望みます．．

第三、むだに心配するべきを生産しないようにしなければなりません．

イエス様は心配に関する教訓をこんなに済ましました．“だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。”(マタイ福音書 6:34)．この翻訳は誤解しやすいです．明日仕事のためにあらかじめ準備する必要がないという意味で誤解してはいけないです．　この句節の一番適切な翻訳は“明日に対して心配しないで”です．未来の事を思わないことはクリスチャンの信仰姿勢ではないです．それは無責任な態度です．イエス様がこんな比喩をおっしゃいました．“あなたがたのうちで、だれかが邸宅を建てようと思うなら、それを仕上げるのに足りるだけの金を持っているかどうかを見るため、まず、すわってその費用を計算しないだろうか。そうしないと、土台をすえただけで完成することができず、見ているみんなの人が、あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになろう。また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えるために出て行く場合には、まず座して、こちらの一万人をもって、二万人を率いて向かって来る敵に対抗できるかどうか、考えて見ないだろうか。
もし自分の力にあまれば、敵がまだ遠くにいるうちに、使者を送って、和を求めるであろう。”(ルカによる福音書 14:28～32) しました．貪心と欲深で行動して生ずる心配するべきは自業自得です．信者たちは神様のお許し願えることを調べなければなりません．神様の雲の柱，火の柱が止めることを無視して先立って進む事がないようにしなければなりません．イエス様が禁ずることは未来に対する計画と分別ではなく未来に対する心配です．　深思熟考して決めて，未来に対する計画と準備をすればむだに心配するべきを生産しなくなります．

第四、皆さんの心配するべき解決のために神様が関与するようにしなければなりません．

心配するべきを一人で背負って解決しようと思えば心配が心の中に深く掘り下げます．そんなにすれば心細くなって楽しさが消えます．神様を皆さんの心配するべき解決のために介入して関与するようにする具体的な方法をよく見ます．マタイ福音書　6章 33節に “まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。　”しました．彼の国と彼の義を求めなさいという言葉は神様の国と彼の義に適当な生活をしなさいという意味です．神様まず，神様第一の姿勢に生活しなさいという意味です．そんなにすれば神様が心配に介入して関与して神様の時に神様の方法で解決します．神様は先に彼の国と彼の義を求める者に向けて助ける手助けを突き出します．また ピリピ人への手紙 4章 6節と 7節に“何事も思いわずらってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。”　しました．心配する代わりにただすべての事に祈祷と懇求で神様に申し上げなさいとおっしゃいました．心配するその時間にむしろ祈らなければなりません．心配するべきを祈祷するべきにしなければなりません．またペテロの第一の手紙 5章 7節に “神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。”言いました．勧告するという言葉は面倒を見るという意味です．心配するべきを讃尿と祈祷で神様に任せなければなりません．詩編に “日々にわれらの荷を負われる主はほむべきかな。神はわれらの救である。　”　(詩編 68:19)と言ったし，イエス様が親しくおっしゃるのを“すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよ。”(マタイ 11:28) しました．このような言葉はお聞きしたありがたい命令で貴重な約束です．難しくて複雑な問題を持っているのに心に平安を維持することができる人は実に幸せな人です．神様に祈りながら感謝することで申し上げて心配を任せる人には神様がくださる平安が臨みます．イエス様は “わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。”(ヨハネ 14:27) しました．イエス様の平安はガリラヤみずうみの風浪を静かにさせる平安です．イエス様が弟子たちとともに船に乗ってガリラヤみずうみを渡るのにイエス様は船の古物をまくらして眠りました．みずうみのまん中に至った時急に狂風が押しかけて波がやまほど押し寄せて船にあふれて入って来ました．ガリラヤみずうみで生きて暮らした漁夫の出身弟子たちだがこんな狂風に対してはなすすべがなかったです．彼らは恐ろしさに捕らわれました．心配が彼らの心霊の中に一杯になりました．彼らが一斉にイエス様位に行ってイエス様を覚ましました．イエス様が風波に向けて “静かだから，静かだから．” なさったら即時にとても穏かになりました．このように神様のくださる平安は皆さん心に起きる心配の風波を即時に寝かせることができます．心配を祈祷と懇求で神様に任せてからは理解を超越する奇妙な神様の平安が心と考えに席を取るようになります．
聖徒の皆さんは自分の信仰状態を測定して見るようにしてください．その中に心配に対してどんなに対処しているかをよく見てください．皆さんは心配を適切によく対処することで私たち神様がくださる喜びと平安をいつも享受するようにお願いします．